



のうふく

農福連携の工夫と道具集

令和8年3月

農福連携治具事例集



はじめに

本事例集は、兵庫県内で農福連携に取り組まれている
農業者及び福祉事業所の方々のご協力により作成しました。
農作業の各工程ごとに農業者や福祉事業所の方が工夫された
16 の取組を集めています。

農福連携の取組において、農業者、福祉事業所の方々は
「どうすれば作業がしやすくなるか、スムーズに進むか」を
常々考え、工程や道具に工夫を重ねておられます。

作業を依頼する農業者や受託する福祉事業所は、何に課題を感じ、
それを解決するためにどのような工夫をされたのか。
また、その効果はどうだったか。

この事例集が、農福連携に取り組んでいる方や、
これから始めようとする方など、
多くの皆さまの参考になることを願っております。

※本事例集で使っている用語の解説

- ・利用者：福祉事業所に入所又は通所している方
- ・支援員：利用者の職業指導、就労支援、作業指導、相談・助言などを行う職員

事例一覧

作業工程

事例



播種・定植



栽培管理



作業管理



収穫・選別



出荷・調製



農福連携実践者へのインタビュー



播種・定植

Tips / 1

作物 農作物全般
名称 土入れ用具

用途 定量の土をポットに入れる
使用資材導入費用 ペットボトルを切って製作 / 0円

仕組みと使い方

- 1 苗用ポットの容量に合わせて500mlのペットボトルをカットして、土入れ用の治具にする。
- 2 用意した治具を使って一つ一つのポットに土を入れ、トレーに並べていく。



(作業のしやすさや持ちやすさは、利用者の特性により一人一人異なるため、作業する人に合わせてペットボトルの下部を切ったもの、上部を切ったもの、スコップのように斜めに切ったもの等を用意する)

背景

- 従来の土入れ用の器具を使用する場合、
 - ① 苗ポット用トレーにポットを並べる
 - ② 一気に土を流し込む
 - ③ ポットの土をならすの一連の作業が必要となる。
- この一連の作業の流れを理解することが難しい利用者には、治具が必要だった。



従来の器具

効果

従来の器具を使えない利用者でも、ペットボトルを使った治具を使うことで入れという作業に携わる機会を持つことができる。



播種・定植

Tips / 2

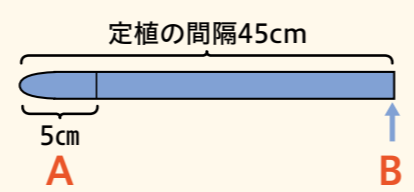
作物 農作物全般
名称 穴あけ用具(播種・定植用)

用途 等間隔に穴を開けて播種・定植する
使用資材導入費用 市販品の資材を加工 / ~100円

仕組みと使い方

- 等間隔で畝(うね)に穴を開ける治具。
- 1 「A」の部分が隠れるまで土に押し込んで穴を開ける。
 - 2 その開けた穴のふちに棒の端の「B」を置く。
 - 3 棒を進行方向に倒す。
 - 4 倒した棒の先端「A」の位置に新たに穴を開けていく。

この動作を繰り返すことで、等間隔に定植用の穴を開けていく。
(道具は、パイプとその関連部品を購入して作成する)



治具を使った作業風景

- 二人一組で作業する。
- ① 一人が開ける穴の深さに合わせて、治具を使って穴を開ける。
- ② もう一人が、開いた穴に苗を入れていく。



効果

慣れてくると作業スピードの向上が見られた。

背景

定植する穴を開ける作業と、穴の間隔を測る作業を一つの治具でできるようにすることで、作業者の作業負担の軽減と作業時間の短縮を目指した。

注意点

- 先端のAの部分を斜めに切って鋭利にした方が穴は開けやすいが、使用時にケガをする可能性があるため丸みのある部材をつけることにした。
- 45cmよりも短い40cmの間隔で穴を開けたい時のために、棒の先端から40cmのところの線を書いてみたが、その線を起点にして測るという判断は難しいため、新たに40cmの棒を作製した。

その他

苗だけでなく、種でも活用可能である。



播種・定植

Tips / 3

作物 玉ねぎ
名称 穴あけ用具(定植用)

用途 等間隔に穴を開けて定植する
使用資材導入費用 廃材の再利用 / 0円

仕組みと使い方

畝に等間隔で多数の穴を同時に開けられる治具。
(道具は、廃棄する予定の部材を組み合わせて作成する)



治具を使った作業風景

- ① 支援者が治具を畝に置いてから踏み、穴を開け、治具を持って移動する。
- ② 一人目の利用者が開いた穴に苗を置いていく。
- ③ 二人目の利用者が苗を穴に押し込み、上から土をかぶせる。



背景

農業者が指定する間隔で苗を定植するために、治具を製作した。

効果

- 定植作業を分解して、苗を置く作業と、苗を穴に押し込んで土をかぶせる作業だけを抜き出した上で、この治具を使うことにより利用者が作業を行えるようになった。
- 農業者が指定する間隔で、正確かつスピーディに作業を進めることができるようになった。

注意点

- 一つの農作業の工程を分解すると、それぞれの作業に必要な注意深さや手先の器用さも異なる。
- 作業と利用者をマッチングするにあたっては、「作業に人を合わせる」のではなく利用者の特性から「一人一人のできることに作業を合わせる」という視点のもとに行うことが重要である。
- 作業分解は農福連携コーディネーターや農福連携技術支援者の認定を受けた人のサポートを受けながら農業者が行うことが望ましい。



播種・定植

Tips /

4

作物 キャベツ、ブロッコリー、玉ねぎ など

名称 穴あけ用具(ハンドプランター)

用途

負荷の少ない定植作業

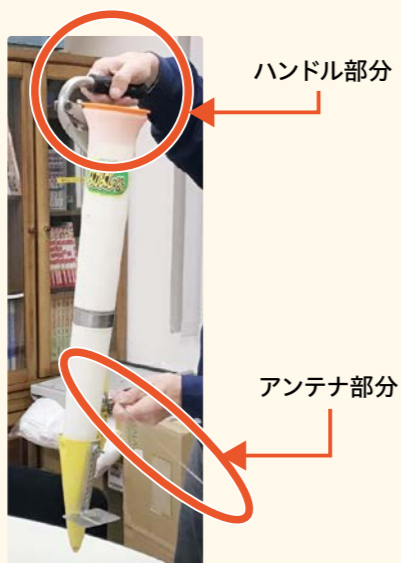
使用資材導入費用

市販品/～2万円

仕組みと使い方

- 立ったままで敵に定植する治具。
- 1 ハンドプランターを土に差して上部の投入口から苗を入れる。
 - 2 ハンドルを握りながら持ち上げると、先端部分が開いて苗が土の中に落ちて植え付けができる。
 - 3 ハンドプランターの中程に左右についているアンテナ状の棒を広げて、次に穴を開ける位置を目で確認することで、等間隔に定植することができる。

(ハンドプランターを持って操作する人と苗を入れる人の二人で作業をする)



背景

農福連携で作業を依頼するにあたり、このハンドプランターがあれば立ったまま定植できるため、利用者が作業しやすいと考えた。

効果

- 腰を下ろすことなく立ったままの楽な姿勢で作業を続けることができるため、利用者の身体の負担が軽くなる。
- 二人一組でテンポを合わせて作業していくため、利用者の特性やペア同士の相性が合うと作業効率が上がる。

注意点

- 先へ先へと急がせる気質の利用者が苗を入れる役割を担った際、穴を開ける役割の利用者が慌ててしまい穴の深さが不十分なまま作業を進めてしまった。
- おっとりした気質の利用者に苗を入れる役割を交替したところ、作業を進めるスピードは遅くなったものの確実に穴を開けて苗を定植していくことが出来るようになった。
- 複数の利用者が一緒に作業を進めていく際には、各人の特性や気質を見定めて組み合わせることが重要である。



栽培管理

Tips /

5

作物 農作物全般

名称 草刈り鎌・ホー

用途

確実な除草作業

使用資材導入費用

市販品/～2,000円

仕組みと使い方

利用者の特性に合わせて治具を選ぶ工夫。

- 1 腰を落として作業ができる人は、草の根が見える姿勢で除草できる道具「A(草刈り鎌)」を使用してもらう。しゃがめない人には立って作業ができる「B(ホー)」の道具を使用してもらう。
- 2 安全に作業してもらうためにも、利用者の動きを観察すること、言葉の理解力を把握することが必要である。



治具を使った作業風景

刃がある道具を扱うため、安全に使えるようになるまで支援員が作業をサポートする。



背景

利用者にとって扱いやすい道具を見極めるため、利用者の動きを観察した。握力はどれくらいあるのか、手の動きはどうかなどの特徴を見て、「この人には何が出来るのか。できない作業は、補助があれば出来るのか。」を把握し、複数の治具を準備した。

注意点

- 利用者に「治具を使いこなしてもらう」のではなく、利用者に合わせて「治具を選ぶ」視点が必要である。
- 草引きをお願いすると雑草の大小に関係なく、目の前の雑草を残らず取り除こうとする場合があるため、「今日は、何時までどこまで除草する」など作業時間を区切っている場合は、計画通りに作業が進まないことがある。



栽培管理

Tips /

6

作物 トマト

名称 刃先の丸い葉切りハサミ

用途

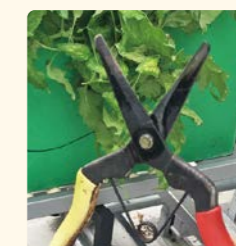
果実を傷めない葉かき作業

使用資材導入費用

市販品/～3,000円

仕組みと使い方

- 葉かき作業をするための治具。
- 1 下から1枚目と2枚目の下葉をハサミで茎ごと切り落とし、カートに入れる。
 - 2 葉かき作業をする際に実を傷めないように、刃先が丸くなったハサミを使う。



刃先が丸いハサミ

治具を使った作業風景

1つのハウスには30レーンが配置されている。各レーンは約50mあり、切り落とした葉を入れるカゴを乗せたカートを引きながら1レーンずつ作業する。



背景

- トマト栽培では、古くなった下葉を取り除く必要があり、ハサミを使ってひと茎ごとに葉を切り落としていく「葉かき」の作業がある。
- 通常使われるハサミは刃先が尖っており、葉かき作業をする際に果実を傷める可能性があると考えたため、刃先が丸くなったハサミを導入した。



刃先が尖ったハサミ

注意点

- 安全面での配慮から、高所作業車が必要な上・中段の作業はパート員が担当し、手が届く下段作業を利用者に担ってもらっている。
- 利用者が「傷をつけてはいけない」と意識し過ぎないようにとの配慮から、他の作業者と異なるハサミを使っていることは伝えていない。



作業管理



作物 トマト
名称 作業手順掲示ボード

用途 葉かき作業の見える化
使用資材導入費用 撮影やレイアウト作業・印刷のみ/0円～

仕組みと使い方

作業の手順や注意点を理解しやすくするための治具。

- 1 作業の手順や注意点の説明を、写真やイラストを使って行う。
- 2 説明は一度だけで終わらせず、ハウス内のボードに貼り出していつでも確認できるようにする。



背景

写真やイラストを用いた作業説明用マニュアルを社内で作成しているので、利用者用に特別に資料を作成するのではなく、これを使用して説明を行うことにした。

効果

確実に理解してもらうことができ、農園が希望している正確な作業を行ってもらえる。

その他

葉かき作業を委託している福祉事業所の支援員も、作業が円滑に進むように工夫を施している。

- (例1) 利用者が当日の作業を行うレーンを間違えないように床に矢印を描く。
- (例2) 葉かきで満杯になったカートハウス外に捨てに行き戻った時に、どのレーンの作業に入るのか判らなくなるため、作業に入るレーンの入り口にシールなどで印を付けておく。



収穫・選別



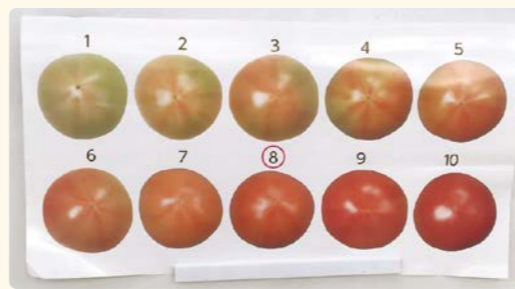
作物 トマト
名称 カラーチャート(色見本)

用途 収穫適期の見える化
使用資材導入費用 撮影やレイアウト作業・印刷のみ/0円～

仕組みと使い方

収穫適期かどうかを判別するための治具。

- 1 トマトの熟期別の写真を並べたカラーチャートを用意する。
- 2 現物のトマトと写真の両方を見てもらい、収穫の時期にきたトマトの色を、写真を見せながら説明する。



治具を使った作業風景

利用者が収穫作業に慣れるまでは、福祉事業所の支援員が付き添って作業を進めていく。



背景

- 言葉だけで収穫できるトマトか否かを伝えることが難しい。
- 写真を使って説明した方が判りやすいと考え、資料を作成することにした。

注意点

- 収穫作業では現物が説明資料のどの段階に当てはまるかの判断が必要になる。



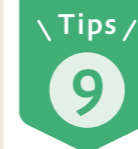
効果

- トマトが熟成して赤くなっていく段階を写真で見せることで説明しやすく、かつ利用者の理解も深まる。
- この資料によって、かなり正確な収穫作業につながっている。

- 利用者によっては写真があっても判断が難しい場合があるため、試行的に受入れて見極める機会を設ける必要がある。



収穫・選別



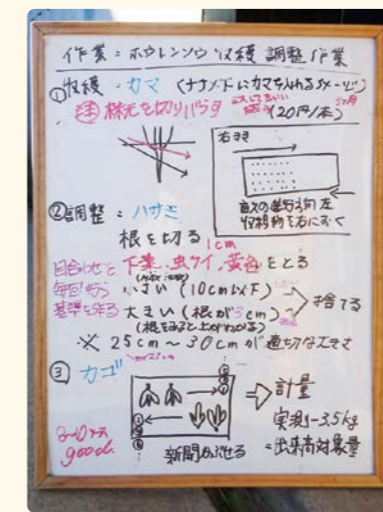
作物 農作物全般
名称 作業内容指示ボード

用途 作業の見える化
使用資材導入費用 ホワイトボード等/～100円

仕組みと使い方

収穫の具体的な作業を理解しやすくするための治具。

- 1 農業者が求めている収穫作業の流れや具体的な動きをイメージしやすくなるよう、図なども使った視覚的なボードを作成する。
- 2 ボードには、その日に依頼したい作業の順番だけでなく、収穫の作業を動作ごとに細かく分解し注意点なども記載する。
- 3 ほ場では、収穫する農産物の近くで作業の説明を行う。
- 4 説明を行った後は、作業場所の近くにボードを置いておき、利用者や支援員が何度も確認できるようにする。



背景

- 依頼したい作業を口頭で伝えるだけでは、利用者はどう動いて良いかイメージしづらい。
- 何度も口頭で説明するより、利用者自身がいつでも確認できるようにしたいと考え、作業する場所から絶えず見えるところに置くことにした。

注意点

- 頭では作業を理解できていても、実際の作業に入れば思うような動きにならない場合もある。
- 最初のうちは利用者にあえて失敗を何回かしてもらう。支援員が利用者の失敗を少しずつ修正していくことで、利用者に正しい作業・動きを覚えてもらうことができる。

収穫・選別

Tips / 10

作物 ピーマン
名称 サイズ計測用具(サイズボン)

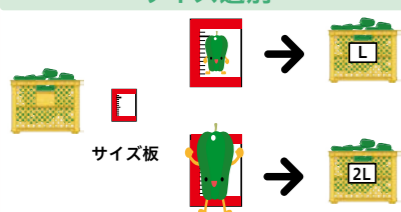
用途 出荷物の大きさを揃える
使用資材導入費用 廃材の再利用/～1,000円

仕組みと使い方

- 2L、L、Mの大きさの規格に合わせてピーマンを仕分けるための治具。
① 図を使ったマニュアルで作業の流れを理解してもらう。
② 規格に合わせて大きさを測れる治具を使ってジャンボピーマンを仕分ける。

(サイズ分けの治具は、木製の廃材を組み合わせて工作する。マニュアルは、文字よりも図を中心に作成する)

サイズ選別



治具を使った作業風景

- Lサイズを測る治具にピーマンを合わせる。
・Lサイズの治具に入らない
⇒2Lサイズ
・Lサイズの治具に入る
⇒②へ
- Mサイズを測る治具にピーマンを合わせる。
・Mサイズの治具に入らない
⇒Lサイズ
・Mサイズの治具に入る
⇒Mサイズか、小さいサイズのいずれか
- Mサイズより小さいサイズは農業者が取り除いていく。



背景

利用者だけでなく福祉事業所の支援員にも簡単にできる作業であることを伝えるために、治具だけでなくマニュアルも作成することにした。

注意点

- 治具によりサイズを見誤る頻度は下がるが、間違えることもある。
- 間違いの例として、最初のうちはサイズを測る際にピーマンを縦ではなく横にして測ることがあったため、マニュアルの絵の描き方を工夫するなどに対応している。

収穫・選別

Tips / 11

作物 白ネギ
名称 規格外品見本写真

用途 規格外出荷物の見える化
使用資材導入費用 撮影やレイアウト後、印刷してパウチ/0円～

仕組みと使い方

- 出荷できない規格外の白ネギを選別する基準を示すための治具。
① 葉の変色や折れている白ネギを写真に撮る。
② 規格外となる箇所に赤マルをつけた写真と短い文章で説明したシートを作成する。
③ シートをボックスの前に貼り出して、常に利用者の目に入るようにする。



治具を使った作業風景

作業する時に目に入りやすく、確認しながら作業することができるようにしている。



背景

- 出荷の規格から外れる傷や形はさまざまあり、その全てを言葉で説明するのは難しい。
- ひと目で理解できるように、傷など一つずつ撮影してシートを作成することにした。
- 目の高さにシートを貼り、いつでも目に入るようにすることで利用者が迷わないよう配慮した。

効果

- 選別の担当者だけでなく、誰でもすぐに見ることができる場所にシートを貼っているため、他の工程の担当者も規格外の白ネギを見つけることができる。
- このシートがあることで「間違わずに作業ができる」と思えるようになったと言われており、作業員全員の“お守り”になっている。
- 出荷先からは規格外品が混じっていたというようなクレームがきたことはなく、質の高い作業が可能となった。

収穫・選別

Tips / 12

作物 白ネギ
名称 デジタル計量器

用途 規格に合った出荷物の選別
使用資材導入費用 市販品/10万円前後

仕組みと使い方

- 収穫した白ネギを重さごとにランク分けするための治具。
① 白ネギを計量器に置くと、計量器が該当するランク(1、2、3、4、5)を、音声で知らせる。
② 利用者が音声を聞いて、該当するランクが書かれたボックスに白ネギを入れていく。



治具を使った作業風景

音声に従って、それぞれのランクのボックスに白ネギを入れていく。



背景

- 利用者が作業場に来て就労してもらうことが決まってから、選別作業で使いやすい計量器をネットで探した。
- ランク分けの初期設定はSSから5Lのアルファベットの5段階が標準であった。白ネギのランク数が多く、利用者がアルファベットよりも数字の方が理解しやすいので数字(1、2、3、4、5)に設定を変更することにした。

効果

- ランクを間違えることなく、正確に選別できる。
- 音声でランクを聞いて仕分けられるため、目視で白ネギの傷など規格外の有無を確認するゆとりが生まれた。

 出荷・調整

Tips /
13

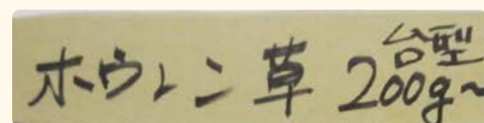
作物 農作物全般
名称 重量指示ボード

用途 規格に合った重量を計る
使用資材導入費用 0円

仕組みと使い方

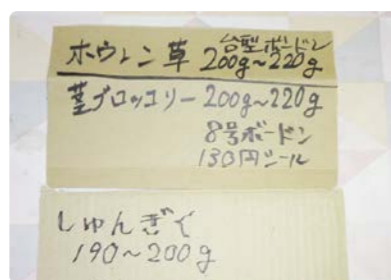
収穫した農産物の重さによって出荷可能なものを取り分けていくための治具。

- 1 計量器のそばに出荷規格にあった重さを記載したボードを置いておく。
- 2 利用者は農産物を計量器にのせて測っていく。
- 3 利用者は計量器で測る度に、機器が示した数値を声を出して言う。
- 4 支援員は利用者の声を聞くことで、計量作業の正確さを確認する。



治具を使った作業風景

- 作業台に計量器と、出荷規格にあう重さの数値を記載したボードを置いておく。
- 以前は、計量する重さの数値を「〇〇g～〇〇g」としていたが、現在は「〇〇g～」のみに変更している。



注意点

- 出荷できる重さを「200～210g」とボードに記載した時、「201g」や「213g」などボードに記載されていない数値が出た場合、出荷できる重さかどうかを判断できない利用者がいた。
- 記載されていない数値が新たに出るたびに、作業が止まる恐れがあると気が付いた。
- 消費者に内容量が少ないものを提供しないことが大切なので、ボードには「200g～」のみの記載に変更して利用者への指示の情報を減らし、作業がスムーズに進むようになった。

 出荷・調整

Tips /
14

作物 白ネギ
名称 袋詰め補助用具

用途 袋詰め作業の効率化
使用資材導入費用 廃棄予定の肥料袋 / 0円

仕組みと使い方

収穫した白ネギを細長い出荷用ビニール袋に入れていくための治具。

- 1 廃棄予定の肥料袋を適当な大きさに切り、束にした白ネギを包む。
- 2 白ネギを包んだ肥料袋ごと出荷用ビニール袋に入れ、肥料袋だけを引き抜く。



治具を使った作業風景

白ネギが出荷袋の途中でひっかかることなく、袋詰め作業がスムーズに進められている。



背景

- 束にした白ネギを出荷用のビニール袋に入れようとすると、すべりが悪いため、スムーズに入れることができない。
- 袋詰めを簡単にできる方法を考え、肥料袋を活用した。
- 肥料袋でなくても、他の袋や紙でも代用は可能である。

効果

- 袋詰め作業の作業時間が短くなった。
- 入れにくい袋詰め作業のストレスから解放された。
- 誰にとっても簡単にできる方法なので、利用者も円滑に作業できる。

 出荷・調整

Tips /
15

作物 農作物全般
名称 ラベル張り補助用具(ラベポジくん)

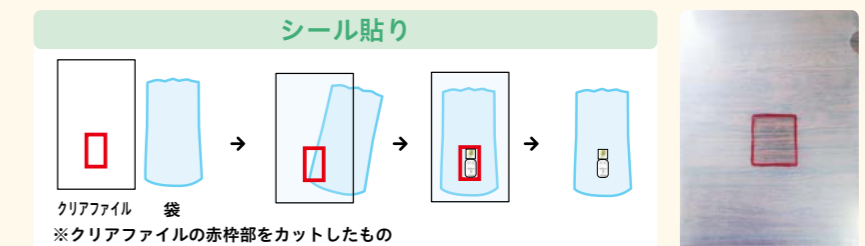
用途 定位置へのシール貼付
使用資材導入費用 市販品の加工 / ~100円

仕組みと使い方

出荷袋の定位置にシールを貼るための治具。

- 1 クリアファイルに出荷袋を挟み込む。
- 2 開けた穴のところから出荷袋に、シールを貼っていく。

(道具は、出荷袋のシールを貼る位置に合わせてクリアファイルに小窓のような穴を開け、穴の周りを赤のマジックで塗って、位置をわかりやすくして作成する)



治具を使った作業風景



穴から外れてシールを貼るとクリアファイルにくっついて出荷袋が抜けなくなるので、失敗したことが分かる。クリアファイルを2枚つないだり、開ける穴の位置を変えたりすることで、大きさの異なる他の農産物のお荷物へのシール貼りにも使える。

背景

出荷袋のシールを全て同じ位置に貼るために、口頭で説明するのではなく、利用者が容易に理解できる方法を検討した。

注意点

- 作業に慣れない間は、出荷袋を逆さまにしてクリアファイルに挟んでしまい、出荷袋が大量に無駄になったことがあった。
- 予防策としてクリアファイルを購入して、予め出荷袋を挟み込んでから利用者にシール貼りだけをお願いする方法もある。



農福連携実践者へのインタビュー interview

赤穂市立さくら園【赤穂市】

担当係長：東 祐一郎 氏

事例番号：①、③、④

■きっかけ・経過

コロナ禍で企業からの受託作業が減少したため、その対策として農福連携のネットワーク会議に参加したのがきっかけとなった。赤穂市の若手農業者へ積極的にアプローチしたり、光都農林振興事務所から協力を得たりして、理解ある農業者とのマッチングが実現した。

■年間を通じた多様な受注

キャベツ・ニンニク・さつまいも・小松菜など多品目の定植・収穫・出荷調整を受注している。それ以外にも水福連携として、カキの袋作りを行っている。今年度新たに赤穂みかんの袋詰めを受注するなど、年間を通して安定した就労の機会を確保できている。「福祉事業所の作

業だから」という概念でなく、「受注した作業は120%達成を目指す」をモットーに、丁寧な作業による品質管理を徹底し、農業者との信頼関係を築いている。

■利用者のやりがい

屋外作業では利用者がのびのびと作業できている。また農業者からの感謝の言葉が励みになっている。自分たちが関

わった野菜を店頭で見つけて購入するなど、誇りを感じている様子も見られる。

■相談から始まる農福連携

農作業に負担を感じ受託先を検討している農業者には、まず「ひょうご農林機構」へ相談することを勧める。作業内容や条件は調整可能で、農作業を通じて利用者の可能性が広がることを知ってほしい。

榎本ファーム【明石市】

代表：榎本 浩久 氏

事例番号：②、⑤、⑨、⑬

■きっかけ・経過

令和3年に兵庫県とひょうご農林機構が共催した「農業経営者向け農福連携研修会」を受講したことがきっかけとなり、受講後にインターンシップを経て本格的な作業委託へと進めていった。

■できる作業を見つける

農作業に利用者をお合わせるのではな

く、利用者に農作業をお合わせるのが一番大切と考えている。そのためには次の流れで任せる作業を見つけている。

①人を知る：できること・できないこと、補助があればできることを把握する。

②作業を考える：気質は外向きか内向きか、手が動かせるかなど特性に合

う作業を選ぶ。

③作物と作業を決める：その人ができる作業が見つかるまで、農作業を細く分解（作業分解）していく。

■作業を進める際のポイント

①情報は簡潔に：作業の説明は「多く・いろいろ」より、「少なく・簡潔」にして理解しやすくする。

②同じ作業を繰り返す：作業を繰り返すことで作業スピードがあがり、利用者も楽しんで作業に集中していく。

③支援員と密に連携する：利用者の特性と求める農作業が上手くマッチングできるよう支援員とは積極的に対話していく。

株式会社ジェイエファーム六甲【神戸市北区】

農業支援部 課長：片山 勲 氏

事例番号：⑥、⑦、⑧

■きっかけ・経過

コロナ禍で外国人実習生やパート員の確保が難しくなった。特別支援学校の授業の一環で生徒を受け入れていたこともあり、農福連携を考えるようになった。令和4年度から取組を開始し、複数の福祉事業所向けの説明会の実施と調整を経てA型・B型の2つの福祉事業所と契約した。

■負担をかけない

トマトの収穫の繁忙期は3～6月である。収穫はそのタイミングの判断が必要なことからA型事業所のみ委託し、葉かきはA型事業所・B型事業所の両方に依頼している。夏場はハウス内が高温になることから、熱中症リスクを考慮して休業としている。

■働きやすい職場環境づくり

休憩所やトイレの整備など、他の従業員と同様に快適な環境づくりを重視している。A型事業所との賃金もパート員の水準に合わせて引き上げている。

■自然なコミュニケーション

仕事の指示は支援員を通じて行うものの、休憩時には利用者とは雑談を楽しむ

など、無理のない自然な関係づくりを心がけている。

■新たな作業への挑戦

現在、規格外トマトの袋詰めを新たな委託作業として検討している。試験的にB型事業所へ依頼したが、支援員不足などで契約には至らず、引き続き実現を目指している。

343（佐用産）【佐用町】

代表：石原 教成 氏

事例番号：⑩、⑮、⑯

■きっかけ・経過

家族経営では、日中はほ場作業、夜は袋詰めなどの出荷作業を行っている。

生産量を増やすほど夜の作業が増え、負担が限界に達していた。出荷作業だけでも外部委託したいと考えていたところ、近隣農家の農福連携の取組を知り、自園でも委託を始めることにした。

■受託してもらいやすい環境をつくる

利用者のための休憩所やトイレを整備する必要がある。しかし当農園では難しかった。そこで、農産物を福祉事業所へ運び、そこで作業してもらう方式をとることにした。ほ場から最も近い福祉事業所に作業を請けてもらいたいと考え、作業マニュアルや治具を整えて、受託して

もらいやすい環境をつくることにした。

■継続して働いてもらえる環境をつくる

利用者には休憩を促したり、治具の使い心地を確認するなどこちらから積極的に声がけをし、成果を褒めることで意欲が高まる。福祉事業所の作業場で使う椅子を提供することで身体の負担の軽減にも取り組んでいる。

■農福連携の効果

3年間の取組により、目の前の作業をこなすことで精一杯の毎日から解放され、出荷作業に余裕が生まれるようになった。生産量の拡大も視野に入るようになり、将来を考えるゆとりが生まれた。

神戸岩岡農産【神戸市西区】

代表：淡野 雄貴 氏

事例番号：⑪、⑫、⑭

■きっかけ・経過

令和2年に就農し、定植から出荷までを一人で担っていたため負担が大きかった。当初は母の勤務先の福祉事業所へ作物を持ち込んでいた。その後研修会に参加し、かつインターンシップを経て新たにB型事業所と契約したことでほ場内の作業場で就労してもらう形態を確立した。距離や支援員

確保など課題はあるものの、利用者の楽しみにもつながっており、今後も継続したい。

■作業しやすい環境づくり

白ネギの作業工程のうち箱詰め以外の作業を委託している。皮むき用の機械は既にあったが、その音や振動が利用者にとって負担となるため手作業に変更した。最初は時間がかかったが、2

週間ほどで作業量が100袋から170～180袋へと向上した。

■白ネギが農福連携に適する理由

白ネギは収穫後の冷蔵保存により鮮度を保てるため、作業の順序や時間を調整しやすい。夕方に収穫し、翌朝から裁断作業を始めるなど利用者の作業時間に合わせて柔軟に作業工程を変更して進める

ことができる。

■安定した就労の場を目指す

当農園の独自技術により一年を通じて収穫できる体制を整え、安定した就労機会を提供できるよう努めている。今後は技術向上や作業効率化を進め、工賃アップにもつなげたい。



参考事例

Tips / 16

農業者・福祉事業所間の事務効率化

名称 出来高確認・作業賃請求シート

実際の流れ

- 支援員の出来高確認と請求の業務負担を軽減するための工夫。
- 朝、農園から福祉事業所の敷地内にある作業所へ農産物を搬入する。
- 支援員にその日の農産物の種類、現地で測った重さやコンテナの数を確認してもらって、チェックシートに押印もしくはサインをもらう。
- 作業を依頼した日ごとに記録してチェックシートを埋めていく。
- 月末に埋まったチェックシートから出来高の合計と金額を算出し、双方で確認したうえで請求書の扱いとする。

例) 請求書

343 榎本 締日 2024年6月30日

〒670-5201 佐用郡佐用町佐用1506 社会福祉法人佐用福祉会いちよう園

下記の仕分け作業の請求を致します。

日付	項目	重量(t)	サイン	金額(20円/kg)
6/5	ジャンボピーマン	2400	いちよう園	48
"	"	3890	いちよう園	78
"	"	2190	いちよう園	44
"	8	4300	いちよう園	86
"	14	2600	いちよう園	52
"	"	2900	いちよう園	58
"	"	2600	いちよう園	52
"	"	1699	いちよう園	34
"	"	795	いちよう園	16
"	18	4500	いちよう園	90
"	"	3900	いちよう園	78
"	20	4520		
"	"	2800		

343 榎本 記入欄

いちよう園 記入欄

背景

- 福祉事業所の支援員の業務負担を軽減する目的でシートを作成した。
- 従来は月ごとに福祉事業所の支援員から一か月の作業の出来高の請求書を発行してもらって、農業者が支払う流れであった。
 - 支援員には作業日ごとの出来高確認に加え、一か月分の請求書発行の手間がかかるため、作業日ごとに出来高確認するシートを請求書にも使えるよう工夫した。

効果

支援員は作業日ごとの出来高を確認するだけで、一か月分の請求書発行の手間が省略可能となる。